



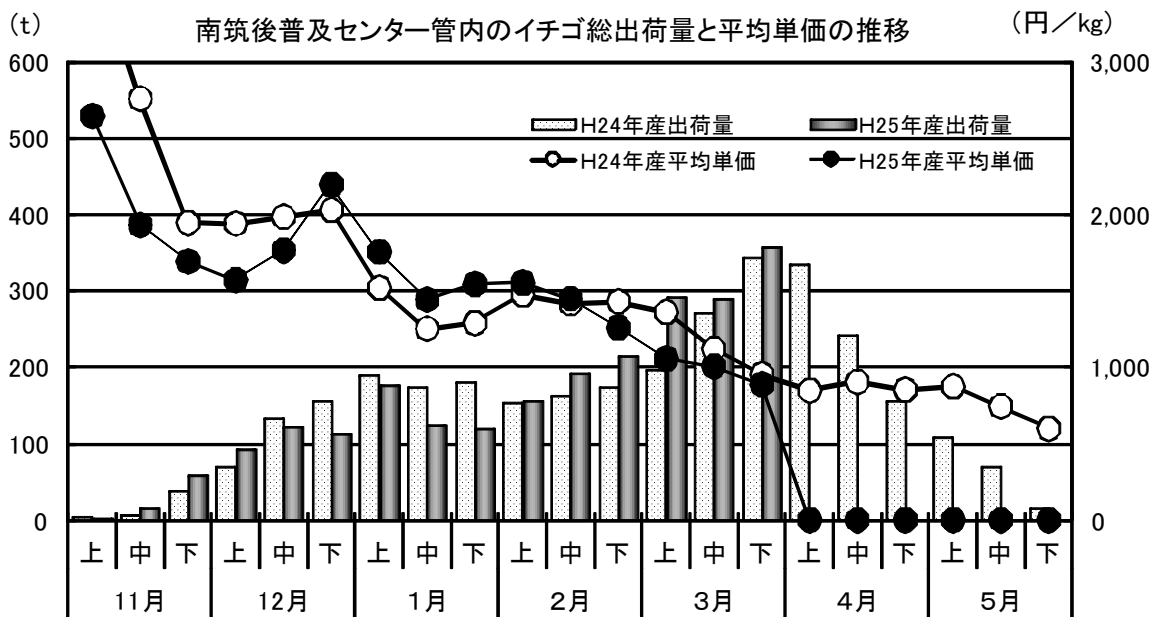
「あまおう」4月の管理

南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

2月下旬頃より日照時間が長くなり、果実の成熟が日に日に早くなってきています。現在の生育は、3番果房が1果から3果収穫中心、4番果房が未出蕾から出蕾始めで、3番・4番ともにほ場によるバラつきが大きく見られます。

今後は気温が高く、日射しも強くなるため、過熟果・傷み果の発生が心配されます。従って、妻面の開放や遮光資材等の活用による降温対策を行って下さい。また、病害虫では、特にスリップスとハダニの発生が多く見られます。さらに、これからは、うどんこ病の発生にも注意が必要です。

親株は心葉が動き出しており、ランナーが発生し始めたほ場も見られます。炭そ病の菌も活動し始めますので、定期的な防除を行って下さい。



本ほ管理

<軟果対策>

温度上昇等により発生が多くなる。ハウス内温度が上昇しないよう降温対策に取り組む。特に、降雨後や軟弱徒長傾向の株や成り疲れ株では、軟果の発生が多くなる。

<病害虫対策>

ハウス開放に伴い、害虫の飛び込みが増加する。農薬の使用回数やハチの影響日数に注意し、防除の徹底に努める。

1 かん水管理

- ◇ かん水は少量多回数に努める。気温上昇とともに蒸散量が多くなるため、かん水量を徐々に増やし、水分が不足しないように注意する(目安はpFメーターで1.7~1.8)。
- ◇ 品質維持(日持ち・食味)のため、収穫前日のかん水は控え収穫直後のかん水を励行する。

2 温湿度管理

- ◇ 収穫後は早めに低温の場所に移し、温度の高い場所に長時間放置しない。
- ◇ 晴天日はサイド・谷・妻面の換気を早朝から行い、低温で管理する。
(夜温が7℃以上の場合は、夜間も開放状態とする)

- ◇ 降雨時は、雨が降り込まないように注意してサイドや妻面換気を行い、湿度を下げる。

- ◇ 遮光資材(寒冷紗、塗布剤)を活用し、温度上昇を抑える。遮光が強すぎると黄種果の発生が助長されるため、ビニルへの塗布は1回目に薄めに行い、日差しが強くなった頃に追加塗布する方法が望ましい。

〈温度管理の目安〉

	温度
昼間	午前 18~20℃
	午後 18℃以下
夜間	5℃

3 果梗の除去と花だし・玉だし

- ◇ 傷果防止のため、収穫が終了した果梗は除去する。但し、無理にとると他の果実に傷が付くため、除去しにくい場合ははさみ等を使用する。
- ◇ 果実が葉の下に隠れると、黄種果や軟果の原因になる。果実に光が当たるように葉よけや摘葉を行い、花だし・玉だしを行う。

4 日焼け果・果実の煮え

- ◇ 雨が続き、果実表面に水滴が付いたような状態の翌日に、快晴で温度が急に上昇した場合に発生しやすい。
- ◇ 谷換気により、直射日光が当たる谷から2列目の畝やハウス中央部にかけて発生が多い。
- ◇ 日焼け果は果実表面が白や銀色になり、果実の煮えは全体的に暗黒化する。
- ◇ 対策としては、曇雨天後の晴天に注意し、換気や遮光を行って果実温度の上昇を避ける。

5 病虫害防除

◆スリップス類

今年は、全体的にスリップスの発生が多く見られる。今後は、ハウス外からの飛び込みも増加すると考えられるため、定期的に薬剤防除を行う(ミツバチを返却するまでは、IGR 剤を中心に使用する)。

◆ハダニ類

ハダニが発生している株は、強めの摘葉後、葉裏まで付着するよう丁寧に薬剤を散布する。多発している株は、株ごと除去する。

◆うどんこ病

発病を認めた場合には、罹病葉や病果を速やかにハウス外に持ち出し、葉裏まで付着するよう丁寧に薬剤散布する。多発している株は、株ごと除去する。

(裏面につづく)

専用親株の管理

健全な苗を育成するためには、親株管理が最も重要です。ランナー発生前からの薬剤防除を中心とした「炭そ病対策」と、親株の順調な生育を促す栽培管理を行って下さい。

1 「炭そ病」対策（「炭そ病」は、ランナーが活発に発生している時期に感染しやすい。）

- ◇ 「炭そ病」予防のため、ランナー発生前から7～10日に1回を目安として薬剤散布を行う。
- ◇ 病原菌は、古葉や果実を摘除した傷口から侵入しやすいので、降雨直前の作業はなるべく控え、摘除作業の後は、必ず降雨前に薬剤散布を行う。
- ◇ 畝面に全面マルチを行い、土と遮断する。さしポットの場合は、切りワラを敷き詰める。
- ◇ 「炭そ病」の発生株を確認したら、発生株及びその周辺の株をほ場外に持ち出し廃棄する



2 その他の管理

- ◇ ランナー発生前に、古葉を摘除する。
- ◇ プランター等で親株を育成する場合、IB化成を4月上旬までに10粒/株（1回目）、5月上旬までに5～10粒/株（2回目）を施用する。
- ◇ ランナー発生期の4～5月に乾燥すると、生育遅れやランナー数の減少を招き、採苗時期の遅れや採苗本数不足の原因となる。水分が不足しないように、かん水施設を準備しておく。
- ◇ 排水対策用の溝を、必ず整備する。
- ◇ マルチの隙間から出た親株周辺の雑草は、手作業で除草を行う。
- ◇ 棚式育苗の架台下の除草、排水対策を行う。

〈親株の選抜について〉

- 本田で、果形のおかしい（長手、種がくぼんでいる等）株が見られた場合は、親株に果実をつけて形質を確認し、疑わしいものは連絡又は廃棄をお願いします。
- 果形の揃った収量の取れる‘あまおう’苗を育成するためにも、生育の悪い株を外すなど、親株の段階で優良株を選抜しましょう。

重点啓発事項(スローガン)

- 1 散布前は必ず農薬ラベルの確認と飛散防止の徹底！**
- 2 散布後は必ず散布器具(タンク等)の洗浄と防除履歴の記帳！**